



北海道で漁師になろう③

研修生は 地域が支えます

北海道漁業就業支援協議会

- 漁業研修生を受入れています!
- 花の浮島 礼文
- 夢の浮島 利尻
- 風のまち 寿都
- 海峡のまち 戸井



過去三年半の間に研修生を受け入れた漁協、自治体はそれぞれ一三漁協、一五市町村に上ります。これら の地域全体では七六名の研修生を受け入れ、三五名（研修中は一四名）が漁師となつて、それぞれの地域にいろいろな面で貢献しています。

本誌では、漁業就業対策を目的とした協議会を地域に立ち上げ、市町村と漁協あるいは指導を任せられた漁業者の方々が一体となつて担い手対策に向き合つている四地域を紹介します。

を身につけてきました。もちろん途中で中止したり、就業しなかった人もいますが、全研修生の約六割の人々が漁師となつて活躍しています（北海道で漁師になろう2）。

易に想像されます。

このような状況下、漁業就業者対策として平成二一年八月に北海道漁業就業支援協議会が設立され、漁業者と関わりなく、かつ漁業経験のない人を対象とした漁業就業のための研修事業が行われてきました。事業開始から三年半が過ぎ、この間、多くの人が研修生として漁業現場に入り、漁師の経験をしながら漁業技術

北海道の漁業就業者数は、一九八九年～一〇一〇年に毎年平均九〇〇名を超えて減少しています（図1）。また、六〇歳以上の男子就業者の割合は一九九九～一〇一〇年で三一～三七%（図2）であり、ここ一八年間高齢化が全く改善されていません。このことは、新たに漁業に就業する人数が毎年二〇〇人前後（図3）で、就業者減少を補うにはあまりに少ない人數だからといえます。このような漁業就業者の減少の継続は、次のことが原因として推察されます。すなわち、漁業経営体の後継者なしと回答した割合を見てみると（図4）、全国の平均八一%よりも少ないものの、北海道の経営体も七一%の高い率で後継者なしと回答しており、漁家子

漁業研修生を受け入れています!

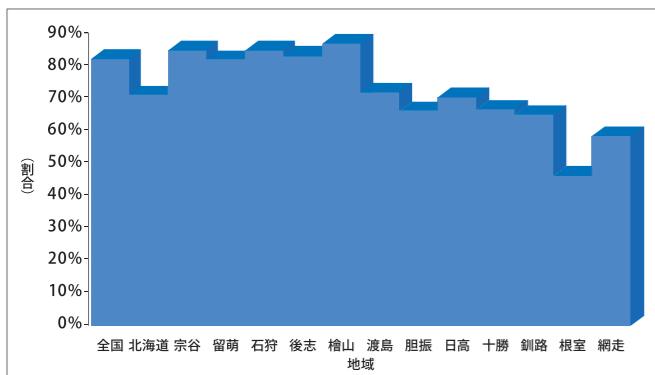


図 4. 漁業経営体の「後継者無し」と回答した割合
(2008 年漁業センサス)

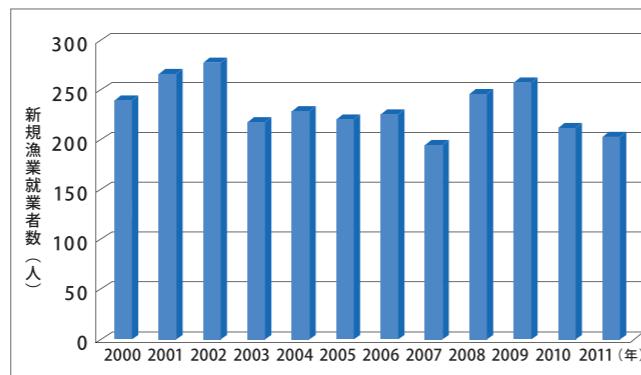


図3. 北海道の新規漁業就業者数の経年変化
(平成23年度新規漁業就業者に関する調査結果の概要)

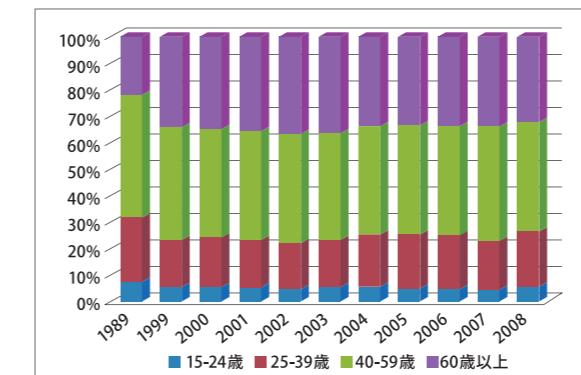


図2. 北海道の男子漁業就業者年齢組成の経年変化
(北海道水産業・漁村のすがた 2012)

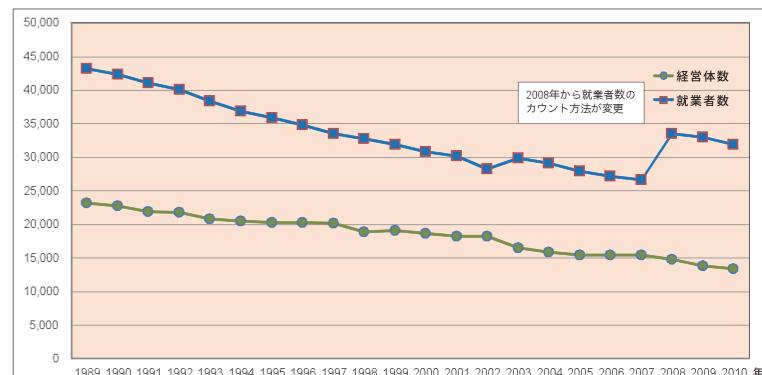
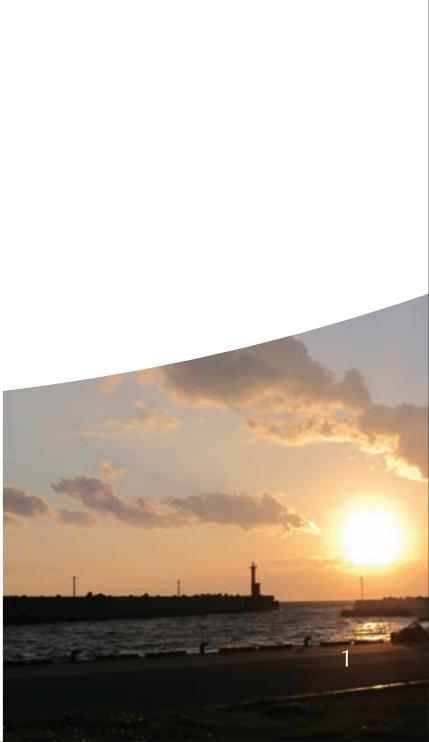


図 1. 北海道の漁業経営体数と就業者数の経年変化
(北海道農林水産統計年報)



花の浮島、礼文

礼文島に咲く高山植物の花畠



コンブの採取

コンブ干作業



香深漁協 湯田参事



担い手担当の礼文町
江刺主事

今回紹介する香深漁協は島の南部を管轄しています。香深漁協は昭和二十四年に設立され、平成二十四年現在一六四人の組合員で構成されています。漁獲されるのはマナマコ、ウニ類、コンブ類などの根付資源が主ですが、ホッケ、マダラなどの漁船漁業も一定程度あり、販売取扱金額は一〇億円以上あります。

研修生を受け入れるようになつたきっかけは、資源はあるのに後継者が不足し、さらに漁師の高齢化が顕著になつたことでした。担い手対策を種々行つきましたが、漁業者の減少傾向を止めることができませんでした。そこで、礼文町、香深漁協、船泊漁協、水産業普及指導所および宗谷総合振興局で構成する礼文地域漁業就業者対策協議会（以下、礼文

漁業協同組合）を平成二〇〇年三月に立ち上げ、漁家子弟やI、Uターンの新規漁業者確保に向けて活動してきました。その一環として、漁業への理解を深めてもらうとともに、研修生本人の漁業への適性を判断してもらうことを目的として、二週間の漁業体験研修を実施してきました。島に移住してきた長期研修生には、指導漁業者、漁協はもちろんのこと礼文協議会としても支援し、地域全体で研修生を支えようとしています。各種の対策により成果は少しづつあがっていますが、依然として管内の漁業者数減少は続いており、担い手対策のさらなる強化が求められています。

担い手対策担当の湯田参事からは、「これまでに研修を終えた人たちが就業することによって、漁協や地域の活性化に繋がっている」との説明がありました。香深漁協では、研修を始めて一年後には准組合員に、二年後には正組合員になります。まだ漁業者は不足しており、さらに研修生を確保したいとのことです。

本邦の島の大きさランギング二八位（面積八一平方キロメートル）の礼文島には一島一自治体の礼文町があります。礼文町の気候は、日本海南部から北上する対馬暖流の影響で比較的寒暖差がないことを特徴としています。また、夏は雨量が少なく、かつ涼しくて過ごしやすい気候ですが、冬は風雪の強い日が多く、大変厳しい気候になります。平成二二年国勢調査結果では、三〇七八人が住民として生活しています。町民は、その人柄から新規住民に対して優しく、温かく接してくれます。礼文島の特徴的な自然としては、夏期に約三〇〇種の高山植物が次々と花を咲かせます。そのため、礼文島は花の浮島と呼ばれていますが、とくに絶滅危惧種のレブンアツモリソウは礼文島の名前を全国に知らしめています。

三〇〇種の高山植物が次々と花を咲かせます。そのため、礼文島は花の浮島と呼ばれていますが、とくに絶滅危惧種のレブンアツモリソウは礼文島の名前を全国に知らしめています。そのため、礼文島は花の浮島と呼ばれていますが、とくに絶滅危惧種のレブンアツモリソウは礼文島の名前を全国に知らしめています。

近年は、町の重要な資源である魚介藻類をとる人の減少と高齢化が顕著となり、これに対する施策が重要な課題となっています。資源はあるのに漁業者が足りないことは、水産の町にとっては大きな問題です。



コンブ漁のモニュメント

な産業は漁業と観光産業で、ときに漁業は夏はウニ類、ホッケ、コンブ類が、冬はマダラが豊富



香深漁業協同組合



礼文町役場

に獲れ、料理やお土産として観光客に提供され、北海道や道外の多くの地域に水産資源を供給しています。

利尻島には島を二分する利尻富士町と利尻町が置かれています。利尻富士町は、昭和三年に鬼脇村と鴛泊村が合併して東利尻村となり、三年後の町制施行により東利尻町に、さらに平成二年に町名変更により利尻富士町になりました。もう一つの町である利尻町は昭和三年に沓形町と仙法志村が合併し、利尻町となり現在に至っています。



ウニ漁と利尻山

有しています。主な取扱魚種はウニ類、コンブ類、マナマコ、ホツケ及びカレイ類などで、取扱金額は三〇億円前後です。漁業の特色としては

島の面積は約一八二平方キロメートルで、日本の島面積一六位に位置しています。島の気候は夏は涼しく、冬は雪が少ないなど恵まれた特徴がありますが、冬の季節風は強く、冬はとくに厳しい気象条件といえます。



利尻町役場



利尻富士町役場

島の主な産業は漁業と観光産業で、漁業の漁獲物としてはウニ類、コンブ類、マナマコ、ホツケなどがあげられます。島の象徴的な水産物であるリシリコンブは、漁獲金額ナンバーワンではないものの、島にとつては大変重要な水産物として位置づけられています。

しかし、この重要な漁獲物であるコンブを探る人が減り続け、それに伴い名品リシリコンブの生産が減少するということが大きな問題となっています。この島では漁業就業者対策が喫緊の課題となっています。

島の象徴である利尻山の東側に位置する利尻富士町は、約一〇六平方キロメートルの面積(利尻島の約五九%)を有し、平成二年現在三〇三七人、西側の利尻町は二五九〇人の人口を有しています。



利尻漁業協同組合

島の主な産業は漁業と観光産業で、漁業の漁獲物としてはウニ類、コンブ類、マナマコ、ホツケなどがあげられます。島の象徴的な水産物であるリシリコンブは、漁獲金額ナンバーワンではないものの、島にとつては大変重要な水産物として位置づけられています。

しかし、この重要な漁獲物であるコンブを探る人が減り続け、それに伴い名品リシリコンブの生産が減少するということが大きな問題となっています。この島では漁業就業者対策が喫緊の課題となっています。

夢の浮島、利尻



利尻漁協 北山参事

想い手担当の利尻町
平等課長補佐想い手担当の利尻富士町
関係長

富士野園地と夕日ヶ丘



島の象徴であるリシリコンブを生産する養殖コンブ漁業の就業者の減少と高齢化が顕著にみられるようになりました。担い手不足により、養殖コンブ漁業によるコンブの生産減という危機が現実のものとなっていました。このことが漁業就業事業に与えたきつかけでした。そこで、就業対策を効率的に行うため、島に利尻富士町、利尻町、利尻漁協、水産業普及指導所および宗谷総合振興局で構

成する利尻地域漁業就業者対策協議会(以下、利尻協議会)を平成二〇年三月に立ち上げました。特色のある取り組みとしては、漁業就業に興味のある人に対して、漁業への理解と職業適性を判断してもらうことを目的として二週間の漁業体験研修を実施しています。また、長期の漁業就業研修生に対しては指導漁業者、漁協だけでなく、利尻協議会としても支援し、地域全体で研修生を支える仕組みを構築しています。

これまでに長期研修を終えた人たちが就業することによって、組合や地域の活性化に繋がっています。担い手担当の漁協北山参事は、「利尻漁協は実態として研修を始めた四ヶ月後には正組合員の申請ができるようになります」と語ってくれました。

しかし、現在も漁業者減少に歯止めがかかつておらず、さらなる対策強化を必要としています。



風のまち、寿都

寿都町の気候は、対馬暖流の影響下にあり、年平均気温は八・八℃で、最高気温と最低気温の差が北海道としてはあまり大きくなく比較的温暖な地域です。年間降雪量は比較的多く、年間四～五メートルを記録して

メートル前後で、比較的生活しやすい気候になっています。町の面積は約九五平方キロメートルで日本の町面積ランキングでは三八四位に位置し、全国では中規模の町です。人口は平成二二年国勢調査結果では三四四三人でした。



寿都町漁業協同組合



新規就業者のための町営住宅

見られていましたが、新規就業者用の住宅の建設などの各種の担い手対策により減少傾向から脱しました。それでも、住人の高齢化率（六五歳以上の比率）は三五%以上あり、漁協組合員の高齢化率も四五%に達しています。漁業の町、寿都町の将来を考えると、漁業の担い手対策は依然として町の重要な施策になつてきます。

寿都町漁業協同組合は複数の組合の合併により昭和四〇年に設立され、平成二三年現在一二地区、一二七人の組合員で構成されています。主な取り扱い魚種は寿都町を代表するホツケあるいはマナマコ、スルメイカ、イカナゴ、サケ、ブリおよびホタテガイなどで、取扱金額は年変動があるものの一五億円前後です。漁業の特色としては定置網や底建網の待ち受け漁業、ナマコ桁網などの浅海漁業、イカ釣り漁業、イカナゴの敷網漁業あるいはホタテやカキなどの養殖漁業など多岐にわたつて

殖漁業など多岐にわたつて



担当手担当の寿都町
山課長



寿都町漁協 和田部長



火力発電施設



地グルメ「寿都ホッケめし」を

定置網でブリ大



定置網の漁業体験研修



新規漁業就業事業の研修生を受けるようになつたきつかけは、コング養殖業を営む経営者の高齢化により、近い将来現在の漁協としての漁業規模を維持できなくなるかもしれないという危機感を持つてているところに、新規漁業就業者の研修事業を渡島総合振興局と函館市から紹介されたことでした。そのため、渡島総合振興局の指導により戸井漁協、函館市農林水産部水産課、函館市戸井支所産業建設課、渡島総合振興局産業振興部水産課、水産技術普及指導所からなる函館戸井地域漁業就業者対策協議会（以下、函館戸井協議会）を平成二二年五月に立ち上げま



戸井漁協 谷藤部長



コンブ採取



イカ釣り漁船



釜谷(戸井)



干場でのコンブニ

イ類で、取扱
金額は二二億
円を超えます。
漁業の特色と
しては着業者
が断然多い天
然コンブ採取

漁業地域といえます。その他コンブ
養殖業、タコいさり漁業、ブリやヒ
ラメなどの一本釣り漁業、カレイな
どの延縄漁業、マグロ延縄漁業など
があげられます。





戸井漁業協同組

降つても融ける量が多いことから積雪量は少ない地域です。



函館市戸井支所

と向き合う旧戸井町は、平成一六年一二月に恵山町、榎法華村および南茅部町とともに、函館市に編入合併しました。戸井地域は新しい函館市の南東部に位置し、戸井地域の汐首岬は北海道と本州の最短地点（距離は一七・五キロメートル）として有名です。地域の面積は約五三平方キロメートルで、人口は平成二四年現在三一七〇人です。戸井地域の気候は、平均気温は約九℃、津軽海峡の影響を受け、比較的温暖な地域です。

業となつております。とくに天然コンブの採取は多くの漁業者が関わっています。その他、イカ釣り漁業やいさりタコ漁業なども地域にとって大切な漁業となっています。

療所があり、買い物先としては個人商店がありますが、函館市街が近いことから、通院や買い物に不便はありません。このような地域ですが、戸井地域の人口は五〇年近くの間に、約四〇%まで減少し、かつ高齢化も進んでいます。産業人口の大部 分を占める漁業者の減少も顕著で、漁協組合員数では最近五年間で一六%以上も少なくなっています。地域の重要な産業であるコンブ養殖業は若い担い手が必要な漁業ですが、後継者の確保が難しく、担い手対策は地域の重要な施策になりつつあります。

した。当該年度から漁業就業の研修生を協議会として受け入れ、二三年度には二人目の研修生を受け入れ、二人目の研修生は研修を中止しましたが、二人目の研修生は順調に研修に励んでいます。函館戸井協議会では長期の研修に入る前に、独自の体験研修を行つたり研修、就業から近い将来までの基本的な計画を策定しています。漁家子弟やI、Uターンの新規漁業者確保に向けて、さらに活動を活発化することが求められています。

戸井漁協では、研修生が研修修了した後、組合員資格要件を満たせば正組合員の申請が可能となります。

つく恐れがあるので、何とか後継者を確保する必要があります」と語り、函館戸井協議会と北海道漁業就業支援協議会との連携に期待していました。

海峡のまち、戸井



「北海道で漁師になろう！」サイト

<http://h-suisankai.or.jp/conference/>

お電話でのお問い合わせ 011-280-3007
〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目
北海道水産ビル 北海道水産会内

北海道水産会 | 北海道漁業就業支援協議会



HOME 北海道で漁師になろう！ 渔師になる方法 渔業就業支援協議会とは 交通アクセス 渔業就業支援フェア情報

最新情報 What's New これまでの情報一覧

2012年11月2日 「新・漁業入itia 2012」への出席

2012年11月1日 「北海道漁業就業支援フェアin旭川・函館」を開催します！

2012年10月1日 北海道漁業就業支援協議会が「新・漁業入itia 2012(札幌会場)」に出席

2012年09月26日 新規漁業就業を目指す研修生の説明会を始めました！

2012年09月28日 「北海道暮らしフェア」に北海道漁業就業支援協議会が出席します

2012年08月06日 渔業就業入門研修で「北海道で漁師になろう？」を講演

2012年07月24日 渔業就業支援フェア 2012（東京会場）開催される！

2012年07月05日 造立・漁業就業研修会（即期型定期研修）受講生を募集しています

2012年07月02日 平成24年度 第1回社会を問う

2012年06月27日 長期実地研修事業を開拓地域でPR

社団法人 北海道水産会 CHECK!

刊行物 MAGAINES

北海道で漁師になろう NEW

北海道で漁師になろう

漁師という人生3

漁師という人生2

漁師という人生1

リンク OFFICIAL LINK

各種の情報を集めましょう

北海道への移住情報（道庁） 北海道への移住情報（関連団体） 市町村情報（道庁） 北海道の小産情報（道庁）
北海道立漁業研究所 マリンネット北海道 北海道の漁業団体（水産試験場） ぎょれん
全国漁業就業支援協議会

お問い合わせ

北海道漁業就業支援協議会

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目

北海道水産ビル 社団法人 北海道水産会内

TEL.(011)280-3007 FAX.(011)280-3008

E-mail:fish10@h-suisankai.or.jp